

食品安全委員会委員と消費者団体との情報交換会（第10回）

1. 日時 : 平成27年11月13日（金） 10:00～12:00
2. 場所 : 食品安全委員会 委員長室
3. 出席者 : (敬称略)
 - (消費者団体)
 - 有田芳子（主婦連合会 会長）、犬伏由利子（消費科学センター 理事）、
 - 小倉寿子（全国消費者団体連絡会 政策スタッフ）、笹川博子（日本生活協同組合連合会 組織推進本部長）、長田三紀（全国地域婦人団体連絡協議会 事務局長）
 - (食品安全委員会委員)
 - 佐藤委員長、山添委員、熊谷委員、吉田委員、堀口委員
 - (食品安全委員会事務局)
 - 姫田事務局長、東條事務局次長、小森総務課長、関野評価第一課長、鋤柄評価第二課長、植木情報・勧告広報課長、木下リスクコミュニケーション官 他
4. 議事
 - (1) 食品安全委員会の活動状況
 - (2) 話題提供 「遺伝子組換え食品の健康影響評価について」
食品安全委員会事務局次長 東條 功
 - (3) 質疑応答、意見交換会
5. 配布資料一覧
 - 資料1 評価技術企画室の設置について
 - 資料2 海外のリスク評価機関との協力文書（MoC）の締結
 - 資料3-1 食品健康影響評価の審議状況
 - 資料3-2 主な食品健康影響評価について
 - 資料4 食品安全委員会フェイスブック
 - 資料5 遺伝子組換え食品の健康影響評価について
6. 意見交換での主な発言
 - 【資料5】遺伝子組換え食品の健康影響評価について
 - (1) 意見交換での当方からの主な追加説明
 - ・ TPPには、遺伝子組換えに関する制度を見直すような取り決めはなく、消費者の意思を無視して、遺伝子組換えについての表示することをやめてしまうことは考えられない。
 - ・ 遺伝子組換え食品について継続的に行っているアンケートでは、10年くらいで「こわい」という回答は減ってきている。また、アンケートについては、聞き方が大切である。仮に「不安ですか」と聞くと、必ず「不安」との回答が

ある。

- ・ 複数の遺伝子が組み込まれた作物が心配との質問に対して、このようなものについては、組み込んだ遺伝子がお互いに影響しないか等の問題がないかを評価している、との説明を行った。

(2) 意見交換での参加者からの主なご意見

- ・ 時間はかかったが、関係者が丁寧なリスクコミュニケーションを行ってきたことで、遺伝子組換え食品・作物についての不安は払しょくされてきたと思う。
- ・ 漠然とした不安の原因として、ヨーロッパが遺伝子組換え食品に積極的でないことと、遺伝子という言葉は後世まで遺伝するとうイメージがあり、さらにそれを組み換えているという表現、そして、その技術に対する不安があると思う。
- ・ 遺伝子組換え植物については、食品としての安全性より環境問題を心配しているとの意見があり、この点については、リスク評価が行われた遺伝子組換え植物に突然変異が起こったとしても、大抵のものは種子ができないため、子孫を残すことができないことや、遺伝子組換え植物が環境中にこぼれ落ちて自然交配等をしていないか、環境中の調査を環境省と農林水産省が行っていることを食品安全委員会より説明。

(以 上)